

富里市教育委員会点検及び評価

(令和8年3月末時点)

<目 次>

1. 教育委員会の点検及び評価について	1
2. 令和7年度富里市教育委員の活動状況	2
3. 令和7年度とみさと教育プランに基づく令和7年度事業目標と評価	
概 要	3
(1) 確かな学力を育む	4
(2) 健全な心と体を育む	14
(3) 地域に開かれた学校づくり	25
(4) 生涯学習の推進	28
(5) 文化・芸術の振興	34
(6) スポーツの振興	38
(7) 青少年の健全育成の推進	43
(8) 平和・人権意識の向上	45
4. 講 評	46

1. 教育委員会の点検及び評価について

【目 的】

教育委員会は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針の下、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育行政事務を執行するものです。

このため、事前に教育委員会が立てた基本方針に沿って具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要性が高いものと考えられます。また、教育委員会が地域住民に対する説明責任を果たし、その活動を充実することが求められています。

このようなことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、平成20年4月から、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

【富里市教育委員会の点検及び評価について】

富里市においては、教育行政の基本的目標として策定している「とみさと教育プラン」を基準として、点検・評価を実施します。

この点検・評価については、毎年度末時点で点検及び評価を実施し、その次の年度の9月議会へ提出するとともに、ホームページへ掲載するなど公表します。

なお、実施方法等については、随時見直しを行っていく予定としております。

2. 令和7年度富里市教育委員会委員の活動状況

(1) 会議関係

【定例会議】

月		4臨時	4	5	6	7臨時	7	8	9	10臨時	10	11	12	1	2	3	合計
内容	専決	0	5	8	8	0	9	3	6	0	4	3	2	2	3	1	54
	議案	0	2	3	5	1	1	3	0	0	2	1	0	0	1	6	25
	協議	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	1	3	0	8
	報告	1	3	4	3	0	1	4	2	1	2	1	2	4	1	4	32

(2) その他の主な活動

- 市立幼稚園・小中学校 入園・入学式、運動会・体育祭、卒園・卒業式
- 富里市学校教育研究会定期総会(4月16日)
- 千葉県市町村教育委員会連絡協議会定期総会(5月20日)
- 印旛郡市民体育大会巡回応援(7月12日)
- 富里市教職員夏季研修会：不祥事根絶に係る研修会(7月22日)
- 令和7年度富里市中学生議会(10月15日)
- 富里市学校教育研究会公開研究会(11月13日)
- 富里市教育委員会表彰式(11月19日)
- 印旛地区教育委員会連絡協議会研修視察(11月20日)
- 令和8年二十歳を祝う会(1月11日)
- 千葉県市町村教育委員会連絡協議会研修会(1月30日)

3. 令和7年度とみさと教育プランに基づく事業目標と評価

【概要】

令和7年度とみさと教育プランに基づく令和8年3月末時点の評価について、「順調に達成したもの(達成度の評価:A)」は、全83項目中50項目(60.2%)、「おおむね順調に達成したものの課題があるもの(達成度の評価:B)」は、全83項目中31項目(37.4%)と、合計で全83項目中81項目(97.6%)の目標が順調に達成した。

重点項目ごとの達成度の評価は次のとおりである。

重点項目	項目数	順調に達成したもの(A)	概ね順調に達成したものの課題があるもの(B)	達成できなかったが一定の成果を得られたもの(C)	達成できずに成果に乏しいもの(D)
全 体	83	50 (60.2%)	31 (37.4%)	2 (2.4%)	0 (—)
確かな学力を育む	21	10 (47.6%)	11 (52.4%)	0 (—)	0 (—)
健全な心と体を育む	22	16 (72.7%)	6 (27.3%)	0 (—)	0 (—)
地域に開かれた学校づくり	6	4 (66.7%)	2 (33.3%)	0 (—)	0 (—)
生涯学習の推進	11	5 (45.4%)	4 (36.4%)	2 (18.2%)	0 (—)
文化・芸術の振興	9	8 (88.9%)	1 (11.1%)	0 (—)	0 (—)
スポーツの振興	9	6 (66.7%)	3 (33.3%)	0 (—)	0 (—)
青少年の健全育成の推進	4	1 (25.0%)	3 (75.0%)	0 (—)	0 (—)
平和・人権意識の向上	1	0 (—)	1 (100%)	0 (—)	0 (—)

学校教育、生涯学習活動ともに、社会環境や多様化する個々のニーズを考慮し、新たな取り組みや工夫を講じたことにより、多くの項目において基本目標達成のための取組が順調又はおおむね順調に進行した。

しかしながら、取組内の成果に留まり、期待される効果までつながらない事業もみられた。地域のひと、場所を活かし、育てながら、個々に寄り添った事業への転換、再構築や多様な周知啓発が求められる。

今後も限りある予算で最大の効果が得られるよう、プラン策定時には、目標を達成するための方策について、あらゆる手段を考察し、目標達成に向け各課で取り組んでいく。

1	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	①確かな学力を育てる教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	学力向上に向けた取組	開始年度	平成23年度	
事業内容	「とみの国検定」の内容を学力の下支えとなる語彙力、計算能力の向上を目的としたものに変更するとともに、年度末の検定に向けて年間を通した取組を市内小・中学校全校で実施する。 ・視写・暗唱・100マス計算(小学校)・計算テスト(中学校)			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績(実施率)	総合評価	
小学校 合格率 ・視写・暗唱・100マス計算	各テストの合格率80%	視写合格率67% 暗唱合格率79% 計算合格率41%	B	
中学校 合格率 ・視写・計算テスト	各テストの合格率80%	視写合格率49% 計算合格率42%		
(達成度)				
4月に推進委員会を開催し、実施要綱について確認、授業時間やモジュールタイムに実施を依頼し、練習の実施にあたった。合格ラインが満点のため、合格率は上がらなかった。				
(課題・改善点)				
今後も目標達成に向け、確実な継続実施を、各校へ呼びかけていくことが必要である。				

2	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	①確かな学力を育てる教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	研究指定による指導方法の改善	開始年度	平成24年度	
事業内容	研究指定を受けた学校は、当該教育課題に関する研究実践を推進し、常に授業の工夫・改善を中心とした研究の推進及び教職員の研修に尽力する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
小学校千葉県標準学力検査における研究教科の平均点の推移	令和6年度と比較して プラスになること	3ポイント減少	B	
中学校千葉県標準学力検査における研究教科の平均点の推移	令和6年度と比較して プラスになること	2ポイント減少		
(達成度)				
とみの国検定と合わせて成果の向上を図った。学校により差が生じていたが、県の平均点との差が縮まっているところもあるため、研修を通して、効果的な取り組みを広げていく。				
(課題・改善点)				
とみの国検定の成果と合わせて児童生徒の実態に合わせて改善点を見出していく必要がある。				

3	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	②教育内容・方法の改善充実		所 管	学校教育課
事業名	教務主任研修の実施		開始年度	令和3年度
事業内容	学力向上のための市全体の取組についての伝達講習を行う。			
指 標		令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価
研修会実施回数		年間の実施報告を確実に行うこと	年3回	A
(達成度)				
教務主任研修会を計画通り実施し、各校の取り組み状況を確認することで、教務主任の力を確実に伸ばし、学校全体の教務の企画・調整の円滑化が図られた。				
(課題・改善点)				
今後も、教務主任研修会において取り組み状況を確認し、確実に力を伸ばすことができるようにする。				

4	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	③基礎や基本となる学習への取組	所 管	学校教育課	
事業名	「とみの国」検定の実施(視写・音読・計算)		開始年度	平成23年度
事業内容	学習の下支えとなる基礎、基本の育成を目的とし、小学校2～6年、中学校1、2年で視写、暗唱、100マス計算を実施する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
小学校 合格率 ・視写・暗唱・100マス計算	各テストの合格率80%	視写合格率67% 暗唱合格率79% 計算合格率41%	B	
中学校 合格率 ・視写・計算テスト	各テストの合格率80%	視写合格率49% 計算合格率42%		
(達成度)				
計画的・継続的な練習実施により、学習の下支えとなる力を着実に養ってきたが、目標の達成には至らなかった。しかしながら、児童生徒個々の力は伸びてきている。				
(課題・改善点)				
検定結果へとつなげ、児童生徒の自信へとつなげることができるようにする。				

5	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	③基礎や基本となる学習への取組	所 管	学校教育課	
事業名	「富里市きょうざん塾」の実施	開始年度	平成23年度	
事業内容	令和版てらこや「富里市きょうざん塾」を夏季休業中に小学校2年生～6年生を対象に実施する。ボランティア団体「きょうざん会」を中心にボランティア講師、高校生ボランティアが行う。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
千葉県標準学力検査の計算領域の結果	令和6年度と比較し全学年プラスになること	平均2ポイント減	B	
(達成度)				
きょうざん塾での実施教科が算数中心のため、千葉県標準学力検査の計算領域の結果を指標とする。学校差が大きく、得点率にばらつきがあった。				
(課題・改善点)				
とみの国検定の継続的な取り組みについて徹底していくとともに、ボランティアの確保及び連絡・調整を確実にを行い、円滑な運営を行う。				

6	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	④外国語教育の充実	所 管	学校教育課	
事業名	ALT(外国語指導助手)・JTE(外国語指導補助員)の配置		開始年度	昭和60年度
事業内容	小・中学校にALTやJTEを配置し、英語のコミュニケーション能力の育成や国際理解教育の推進を図る。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
市内小中学校へのALT、JTEの派遣回数	週2回以上	週2回	B	
(達成度)				
ALT、JTEを配置することにより授業内で英語に触れる機会が確保され児童、生徒が英語に触れる場面を多く設定することができた。特にALT、JTEとのやりとりを通して、英語にコミュニケーションへの興味、関心や意欲付けが高まるなど学習への動機付けにつながる効果が見られた。				
(課題・改善点)				
学力向上という観点では成果が十分とは言えないものもあるが、学習環境の整備や授業の質の向上に向けた基盤づくりとして一定の役割を果たしており、今後の指導改善や指導への取り組みの工夫につなげていく必要がある。				

7	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	④外国語教育の充実	所 管	学校教育課	
事業名	「英会話の日」推進事業の実施	開始年度	平成19年度	
事業内容	小・中学校において英会話に親しむ活動を行い、外国人とのコミュニケーション活動や異文化に触れる活動を通して国際理解教育の推進を図る。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
英会話の日の実施回数	各校計画回数の実施	各校年2回	A	
(達 成 度)				
各小・中学校において、計画通り英会話の日を実施することができ、英会話に親しむ活動やコミュニケーション活動、異文化交流に触れる取り組みを通して外国語で伝え合おうとする態度や異文化への理解が育まれた。				
(課題・改善点)				
英会話の日を通して基礎的な力は育まれているものの、活動内容や到達目標が学年や学校間で十分な共有には至っておらず、学習の積み重ねが目には見えづらい面がある。 また、中学校段階においてはより実践的な言語運用につなげる機会が限られている。小学校から中学校までの系統的な活動内容の整理を行い、段階的な目標を共有し、学びの連続性を高める。				

8	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	⑤ふるさと学習の推進	所 管	学校教育課	
事業名	教育課程全体を通した「ふるさと学習」の推進	開始年度	平成21年度	
事業内容	子どもたちがふるさとである富里を理解し、地域への誇りと愛情を育んでいくために、「ふるさと学習」を発達の段階に応じて教育課程に位置付け、推進する。中学年では副読本を活用して、富里市に関する学習の充実を図る。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
小学校3・4年生でのふるさと学習の実実施時数	3年生:70時間 4年生:58時間	3年生:70時間 4年生:58時間	A	
(達成度)				
学習指導要領では、小学校3・4年生において、自分たちの住んでいる身近な地域について学習することとなっている。各学校では、これらの地域の学習について適切な時間年間指導計画に位置づけており、副読本「わたしたちの富里市」を活用して授業を展開した。				
(課題・改善点)				
教科書や副読本を活用し、ふるさと富里について学習をしているが、地域人材の更なる活用で、理解が深まるよう図っていく。				

9	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	⑤ふるさと学習の推進	所 管	学校教育課	
事業名	「ふるさと学習」に関する研修の実施	開始年度	平成21年度	
事業内容	富里の歴史についての理解を深め、今後の指導に生かしていけるよう、夏季休業中に「ふるさと巡検」を実施する。研修会では、専門性の高い生涯学習課職員を講師として、子どもたちへの指導に役立つ情報を提供し、指導者の育成を図る。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
教職員を対象としたふるさと巡検の実施	10名の参加	16名の参加	A	
(達成度)				
夏季休業中に旧岩崎家別邸を中心に巡検を実施した。市内7校から16名の教職員が参加した。				
(課題・改善点)				
富里市の魅力や歴史を多くの教職員に知ってもらい、市内児童生徒への指導に還元されるよう更なる充実を図っていく。				

10	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	⑤ふるさと学習の推進	所 管	学校教育課	
事業名	地域教材の配付と活用	開始年度	平成14年度	
事業内容	小学校3・4年生の社会科学習で活用するための社会科副読本「わたしたちの富里市」を作成・配付する。この副読本を活用した授業を通して、地域への愛着の増進、故郷である富里の将来を担う人材の育成を目指す。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
小学校3・4年生の社会科授業での活用	7校	7校	B	
(達成度)				
全小学校で、社会科副読本「わたしたちの富里市」を確実に配付し、授業にて活用することができている。授業を通して、地域への愛着の増進、故郷である富里の将来を担う人材の育成を目指した。				
(課題・改善点)				
確実に副読本を活用することができている。更に郷土愛を育てるための手立てを講じていく必要がある。副読本については、令和12年の学習指導要領全面改訂に合わせて電子化を検討していく。				

11	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	⑥特別支援教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	富里市特別支援教育専門員巡回支援事業(巡回相談)の実施		開始年度	平成19年度
事業内容	特別支援教育の専門家チームによる巡回を市内全幼稚園・保育園・認定こども園(私立も含む)、市立小・中学校で年間2回(計画訪問)実施し、特別支援教育の推進を図る。要請による巡回(要請訪問)がある場合には実施し、園や学校だけでなく家庭における支援の仕方についても助言し、個別支援の充実を図る。			
指 標		令和7年度目標	令和7年度実績(実施率)	総合評価
訪問回数		40回	39回	A
要請による訪問回数		8回以上	8回	
(達成度)				
市内私立保育園1園については今年度も巡回支援の希望がなかったが、就学支援の情報共有も含め、指導主事1名が訪問を実施した。巡回支援を実施し、個別支援の充実を図った。				
市立の園、学校に加え、私立の園にも対象を広げていることで、就学前から義務教育段階まで切れ目のない支援体制の構築を進めた。				
園や学校の実態に即した助言、支援方針の共有をすることで、教職員の理解と対応力の向上につながっており、支援を必要とする幼児、児童、生徒への支援体制は大きく前進した。				
(課題・改善点)				
巡回支援の実施により、個別支援の充実が図られている。一方、支援内容の共有、記録の整備が十分ではない園、学校もあり、支援の継続性や効果の見える化が課題となっている。				
巡回支援の内容や助言事項を整理、共有する仕組みを整え、園、学校間での情報共有を更に促進することで、就学前から一貫した個別支援の充実を図る。				

12	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	⑥特別支援教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	ライフサポートファイルの活用	開始年度	平成19年度	
事業内容	特別な支援を要する児童・生徒の保護者にライフサポートファイルを配付し、各機関で受けた検査の結果や支援の状況を記録し、相談先や進学先で活用することにより、子どもの状態を的確に把握し、迅速かつ適切な支援を行う。 自立支援協議会教育・療育研究部会において関係機関委員と富里市特別支援教育に関する情報共有を図るツールとする。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
小・中学校の特別支援コーディネーター対象研修回数	・研修2回 ・教育・療育研究部会3回	・研修2回 ・教育・療育研究部3回	A	
ライフサポートファイルの活用周知	・就学相談毎 ・療育関係機関就学説明時	・就学相談時実施(件数39件) ・療育関係機関就学説明時実施		
(達成度)				
ライフサポートファイルの活用促進に向け、活用方法の周知を重点的に実施、就学前の療育機関へ訪問し説明を行うとともに、配付資料の内容を行った。 また、社会福祉協議会において継続支援事業所支援員の資格を取得する大人を対象に説明を行い、ライフサポートファイルの目的や意義について理解を深めることへつなげた。				
(課題・改善点)				
ライフサポートファイルの活用を一層市内に定着させるため、学校間、関係機関での活用状況を継続的に把握し、好事例の共有を進めていく必要がある。				

13	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	⑥特別支援教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	個別指導補助員の配置	開始年度	平成19年度	
事業内容	特別支援学級に在籍する子どもや通常学級に在籍する特別な支援を要する子どもに対してきめ細かな指導をするために、全ての小・中学校に個別指導補助員を配置する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
配置人数	令和6年度(20人)より増員する	現状維持(20人)	B	
個別指導補助員の研修回数	個別指導補助員連絡会議2回 希望研修3回	個別指導補助員連絡会議2回 希望研修3回実施		
(達成度)				
個別指導補助員を配置し、特別な支援を必要とする児童、生徒へのきめ細やかな支援を行った。併せて、個別指導補助員を対象とした研修を実施したことで、支援の視点や対応方法の共通理解が図られ、学校現場における支援の質の向上につながっている。日常的な関わりを通して、児童生徒の学習面生活面の安定が見られるなど、個別支援体制の充実が進んだ。				
(課題・改善点)				
支援のニーズに対しての人員が、まだ十分とは言えないため、今後は個別指導補助員の増員を検討し、より安定した支援体制の構築を図る必要がある。				

14	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	⑥特別支援教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	発達相談の実施	開始年度	平成18年度	
事業内容	学習上の困難さや生活上の課題を抱えた児童・生徒及び保護者、担任の悩みや心配を解消するために、月2回臨床発達心理士による相談業務を実施する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
相談の実施回数(検査を含む)	100回以上	100回以上実施	A	
(達 成 度)				
公認心理師による発達相談を月に2回実施し、年間100回を超える発達相談(検査・報告を含む)を調整、対応した。相談者一人一人の悩みに寄り添った助言を行うことで、早期の気づき、適切な支援につなげる体制を整えた。継続的かつ専門性の高い相談機会を確保提供することにより、保護者及び関係機関からの信頼も高く発達支援の充実に大きく寄与した。				
(課題・改善点)				
発達相談は年々件数が増加しており、相談内容に応じて必要な支援や関係機関へ適切につなげていく体制の強化が求められる。安定した事業継続に向け、相談件数の増加を踏まえた計画の検討が必要である。				

15	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	⑦幼児教育の充実	所 管	学校教育課	
事業名	浩養幼稚園・浩養小学校を核とした幼小連携	開始年度	平成23年度	
事業内容	運動会やバザー、避難訓練、秋祭りなど様々な行事を通して幼稚園児と小学校児童の交流を図る。小1プロブレムの解消や有効な幼小連携の在り方について研究する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
幼小連携の行事数	5回以上	5回以上実施	B	
(達成度)				
浩養幼稚園、浩養小学校の連携を核として、行事や交流活動を率先して実施し、幼児と児童が円滑に学校生活へ移行できる取り組みを進めた。これにより、小1プロブレムの軽減につながるなど、幼少連携の効果が見られている。				
また、他の園においても回数は多くないものの、相乗効果として市内の園と小学校との交流が徐々に広がり、全体での幼少連携が進みつつある。				
(課題・改善点)				
取り組みが一部の核となる園、小学校に偏っているため、好事例を共有し、市内全体に広げていく必要がある。				

16	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	⑧学校図書館の活用	所 管	学校教育課	
事業名	学校図書館司書の配置による読書活動の推進	開始年度	平成17年度	
事業内容	「富里市おすすめの本」を活用した読書活動を推進し、言語活動の充実を図るための基礎的な能力を養う。 学校図書館司書と各校の図書館担当教諭が連携し、図書室の環境整備を進める。「図書利用アンケート」を実施し、その結果を授業に活用する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
一人あたりの貸出冊数	小学校60冊・中学校10冊	小学校55.1冊・中学校6.4冊	B	
図書利用アンケート実施回数	2回	2回実施		
(達成度)				
図書利用アンケートについて確実に実施し、授業等における図書利用の推進を図ることができた。				
(課題・改善点)				
年々図書の貸し出し冊数が減少傾向にある。 ICTの普及による図書の利用割合の変化によるものと考えられるが、図書による情報の有用性を提示し、改めて図書の必要性を知らせる必要がある。				

17	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	⑨教職員の資質の向上	所 管	学校教育課	
事業名	幼稚園教員の指導力向上研修	開始年度	平成19年度	
事業内容	市内各幼稚園の様子を参観をし、活動内容や支援方法、家庭との連携等について助言を行う。 夏季の研修会において日々の実践につながる研修を行う。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
研修回数	1回以上（希望研修）	1回実施	A	
夏季研修会	1回	1回実施		
(達成度)				
幼稚園教諭の指導力向上を目的に、公認心理師による研修を実施した。幼児期の子どもの発達特性について分かりやすく丁寧な講義が行われ、教員が理解を深める有意義な学びの機会となった。本研修は日常の保育や支援の質の向上につながる取り組みとなった。				
(課題・改善点)				
研修内容を日常の保育実践により一層活かせるよう、事例共有や、継続的な研修の機会を設ける必要がある。				

18	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	⑨教職員の資質の向上	所 管	学校教育課	
事業名	若年層の教員研修	開始年度	—	
事業内容	5年目までの教諭・講師を対象に指導主事が授業観察及び指導を行い、授業力向上を図る。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
指導回数	対象教員一人当たり月1回	60回 対象一人当たり年2～3回実施	B	
(達成度)				
初任者から5年目の教員（講師を含む）について一人あたり年間3回程度の授業参観及び指導を実施した。授業について指導主事によるフィードバックを行った。また、参観レポートを作成し学校長を通して本人に渡し、指導を振り返る資料とした。				
(課題・改善点)				
これまででは対象教員一人当たり、月に1回の実施を目標としていたが、指導内容の検証期間が短いため、実施回数を見直し、指導内容の充実を図る。				

19	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	⑨教職員の資質の向上	所 管	学校教育課	
事業名	教職員夏季研修会	開始年度	平成16年度	
事業内容	市立小・中学校の教職員が、4講座のいずれかにおいて専門的な研修(希望制)を受けることで、実践的な指導力の向上を図る。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
開催講座数	4講座	4講座	A	
(達成度)				
予定していた4講座全てを夏季研修会として実施した。今年度はICT支援員を講師として招きICT活用の研修会を行うなど、各講座で特色のある研修会を行う様子が見られた。				
(課題・改善点)				
今後については、次の目標として夏季に絞らず各研究部会と連携し、より多くの部会で指導力向上が図れるようにしていく。				

20	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	⑩ICTを活用した学習の推進	所 管	学校教育課	
事業名	ICTに係る教員の指導力向上に向けた取組	開始年度	令和3年度	
事業内容	市内小・中学校教職員対象にICT利活用の研修会を実施することで、ICTを活用した授業力、児童生徒へのICT活用指導力の向上を図る。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
ICT利活用研修の実施回数	年4回	年4回	A	
(達 成 度)				
授業で活用するロイロノートの研修に加え、校務支援システムの研修を確実に行之、新規転入職員にも広めることができた。今年度は学期に1回のオンライン研修会を加え、更なる利活用を図ることができた。				
(課題・改善点)				
今年度行った形態を来年度も続け、定期的に情報共有を行うことができるような体制を整えていく。				

21	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1)確かな学力を育む			
	⑩ICTを活用した学習の推進	所 管	学校教育課	
事業名	ICTの活用に向けた取組	開始年度	令和5年度	
事業内容	各校においてICT支援員が週1回程度訪問し、児童生徒の授業におけるICT活用の環境整備や授業サポート等を行う。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
ICT支援員の各校訪問回数	週1日	週1日	B	
(達成度)				
週1回程度ICT支援員が各校を訪問し、児童生徒の授業におけるICT活用の環境整備や授業サポート等を行うことができた。				
(課題・改善点)				
各校に週1回の訪問は確実に行うことができたが、大規模校の場合、クラス数が多いため、子ども一人一人に対しての支援員の訪問回数に差が出てしまう。今後は、各校の実態に応じて、更に調整を行っていく。				

22	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	①豊かな心の育成	所 管	学校教育課	
事業名	道徳教育の充実	開始年度	平成23年度	
事業内容	小・中学校において道徳教育推進教師を中心に、創意工夫した授業を展開する。また、授業を地域に公開し、地域・家庭と連携し道徳教育の充実を図る。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
道徳の時間についての指導法研修の実施	年1回	年1回	B	
(達成度)				
道徳教育の充実に向け、道徳科の時間に限らず、各教科や学校生活全体を通した道徳性を育む育む取り組みが進んだ。授業参観等を通じて、道徳教育推進教師を中心とした実践が行われ、児童、生徒が多様な場面で価値について考える機会が確保された。				
一方、指導法に関する研修については学校内での取り組みを中心に工夫が図られており、市全体として道徳教育を進めるための基盤づくりが一定程度進んだと考えられる。				
(課題・改善点)				
学校間での取り組みに差があるため、道徳教育の実践や指導の視点を共有し、全体としての取り組みの底上げを図る必要がある。				

23	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	①豊かな心の育成	所 管	学校教育課	
事業名	人権教育の推進	開始年度	平成25年度	
事業内容	市民課と連携を図り、人権擁護委員による「人権教室」を実施する。			
指 標		令和 7 年度目標	令和 7 年度実績（実施率）	総合評価
各校3年に一度実施(輪番制)		各校3年に一度実施する	市内3校で実施	A
(達成度)				
人権は「誰もが誰をも認め、過ごしていける場」であることが大切である。人権教室を通して、児童生徒はもちろんのこと、教職員にとっても、日常生活の中で人権意識を育む必要があることを、改めて認識することにつながった。				
(課題・改善点)				
児童生徒の人権を守っていくためにも、「年4回」行われる生徒指導担当者研修で、中心となる先生方に発信をし、教職員の人権意識を高め、子どもたちの育成につなげていく。				

24	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	②健やかな体の育成	所 管	学校教育課	
事業名	体力向上に向けた取組	開始年度	平成25年度	
事業内容	体力調査を基に市内の児童・生徒の体力分析を行い、市体力向上研究部で協議し、より効果的な体力向上の取組を検討する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
県体力テストで県平均以上となる項目	6割	5割	B	
(達成度)				
県体力テストについて、県平均以上となる項目数については、目標の6割に達しなかったが、県平均と同等の結果項目が5割と、おおむね平均的体力値を維持した。				
(課題・改善点)				
体育主任会議で体力向上に係る内容を周知するとともに、継続して市学校教育研修会体力向上研究部との連携を図る。 また令和6年度から小学校低学年に取り入れたスポーツ鬼ごっこを令和7年度は小学校3年生まで拡大した。 今後、スポーツ鬼ごっこの効果を検証し、さらなる体力向上に努める。				

25	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	③不登校やいじめ等への対応	所 管	学校教育課	
事業名	長欠者を減らすための関係機関の連携	開始年度	令和5年度	
事業内容	市内生徒指導・長欠担当者研修会において、関係機関の方を講師に招いて研修会を実施し、関係機関との連携方法の理解を深める。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
関係機関の方を講師に招いた研修会	年1回	年1回	A	
(達成度)				
夏季休業中に千葉県教育委員会の千葉県子どもと親のサポートセンターにある不登校児童生徒支援チームを講師に招き、市内小・中学校教職員を対象に研修会を実施した。長欠児童生徒の支援方法について理解を深めるとともに、互いの連携を強化する良い機会となった。				
(課題・改善点)				
長欠児童生徒は全国でも増加傾向にある。今後どのように対応していくか、生徒指導・長欠担当者に限らず、全ての教職員が考えていかなければならない。				

26	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	③不登校やいじめ等への対応	所 管	学校教育課	
事業名	長欠者を減らすための取組	開始年度	平成27年度	
事業内容	市内長欠・不登校児童生徒に関する市内10校の生徒指導・長欠担当者とのヒアリングを毎月実施する。			
指 標	令和 7 年度目標	令和 7 年度実績（実施率）	総合評価	
ヒアリング実施回数	月1回	月1回	A	
(達 成 度)				
生徒指導・長欠担当者とのヒアリングを確実に実施できた。ヒアリングを行う中で、情報交換や手立てを一緒に考えることができた。				
(課題・改善点)				
不登校児童生徒が、自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指せる校内体制を構築していく必要がある。 また、学校に行くことが全てではなく、どのように一人一人の児童生徒に豊かさをもたせていくか、全ての教職員が考えていこう研修内容等を検討していく。				

27	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	③不登校やいじめ等への対応	所 管	学校教育課	
事業名	ヤングケアラーへの対応	開始年度	令和5年度	
事業内容	校長会議、教頭会議、生徒指導担当者会議等の機会に、ヤングケアラーに対する理解の促進を目的とした研修会を実施する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
研修実施回数	年1回	年1回	A	
(達成度)				
4月の校長会議、教頭会議、生徒指導会議において実施した。教職員のヤングケアラーの理解も深まってきている。そのため、ヤングケアラーの傾向がある児童生徒がいたときにも、子育て支援課との連携等、外部機関との連携が増えた。				
(課題・改善点)				
ヤングケアラーの子どもたちは自分たちが今ある現状を当たり前のこととしている。自然と手伝っているという状況を変え、自分の苦しさをしっかりと外部に発信できるよう、相談ができる大人がいる環境づくりをより一層整えていく。				

28	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	③不登校やいじめ等への対応	所 管	学校教育課	
事業名	適応指導教室「ふれあいセンター」	開始年度	平成7年度	
事業内容	ふれあいセンター(教育支援センター)で不登校の児童・生徒の居場所づくりを行うとともに、児童生徒に対して段階的な支援を行う。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
ふれあいセンターへの出席率	55%	60%	B	
月一度以上学校に登校できた児童生徒の状況	50%	50%		
(達成度)				
個の実態に応じたきめ細やかな指導を行ったことで、ふれあいセンターが居場所になり、継続的に通うことができる児童生徒が多くいた。				
(課題・改善点)				
長欠児童生徒の居場所として、大きな役割を果たしている。長欠児童生徒への支援の方向性が変わり、「必ずしも学校に登校するだけを目指さない。」とする通知が国から出されているが、今後も学校と連携し、児童生徒の社会的つながりを断たないよう支援していく。				

29	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	③不登校やいじめ等への対応		所 管	学校教育課
事業名	いじめ問題の実態把握と取組		開始年度	平成24年度
事業内容	いじめの実態調査を行うとともに、未然防止のための教育相談や教員の研修を実施する。			
指 標		令和 7 年度目標	令和 7 年度実績（実施率）	総合評価
いじめの解消率		100%	67.1%	B
いじめに関する研修の実施回数		3回	3回	
(達 成 度)				
研修を通して、市内教職員の理解が深まり、いじめの定義について定着してきた。また、いじめの早期発見・早期対応に努め、いじめ解消に努めた。				
(課題・改善点)				
いじめの解消率については、いじめ認知後3ヵ月が経過後に確認するものとなるため、3学期に認知されたものについて解消とはならないが、いじめの解消率100%を目標に、積極的ないじめ認知を続けていく。				

30	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	③不登校やいじめ等への対応	所 管	学校教育課	
事業名	教育相談の実施	開始年度	平成18年度	
事業内容	課題を抱える保護者や児童・生徒に早期に対応するため教育相談員を配置し、教育相談活動を行う。			
指 標	令和 7 年度目標	令和 7 年度実績（実施率）	総合評価	
家庭訪問数	200件	356件	A	
相談件数	750件	686件		
(達成度)				
2名の教育相談員が週3日の勤務で家庭訪問や教育相談活動を実施した。各学校のニーズに応じた形で実施した。				
(課題・改善点)				
教育相談のニーズが年々増加しており、内容也多岐にわたっている。教育相談員のみならず、各学校の教育相談体制を強化させていく必要がある。				

31	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	④情報モラル教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	情報モラル教育の推進	開始年度	平成21年度	
事業内容	教員向けの情報モラル教育・授業プログラムを提供し、子どもたちが携帯電話等を介したトラブルに巻き込まれないように、子どもたちやその保護者を対象とした「ケータイ・スマホ出前授業」を実施する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
情報モラル教育に関する授業実施校（外部講師も含む）	小学校（7校）	7校実施	B	
情報モラル教育・授業プログラム提供	小・中学校（10校）	10校実施		
（達成度）				
商工観光課及び、消費生活センターと協力して、「ケータイスマホ出前授業」を実施している。児童生徒の実態に合わせて、内容を調整しながら行うことができた。				
（課題・改善点）				
より実態に応じた授業を行うことができるように、講師との連絡調整を行っていく必要がある。				

32	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	⑤安全教育の推進		所 管	学校教育課
事業名	防犯・不審者情報の適宜・適切な配信		開始年度	平成19年度
事業内容	不審者情報等を速やかに小・中学校、内容により、幼稚園・高校等へ配信する。			
指 標	令和 7 年度目標	令和 7 年度実績（実施率）	総合評価	
「マチコミ」システムの加入世帯数	100%	90%以上	B	
(達 成 度)				
児童生徒数で計算すると72%だが、家庭数換算では90%以上となる。年度初めに「マチコミ」システムの利用を各学校に呼びかけているため、加入世帯が高い割合になった。児童生徒のみならず、保護者にも注意喚起をすることができた。				
(課題・改善点)				
「マチコミ」システムの利用を各学校に呼びかけ、各学校と連携した継続的な加入案内を行っていく必要がある。				

33	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	⑤安全教育の推進		所 管	学校教育課
事業名	防災及び交通安全教育の充実		開始年度	—
事業内容	地震や風水害等の災害に対する意識を高めるため、避難訓練等の防災教育の充実を図る。			
指 標		令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価
防災マニュアルの作成		市立幼稚園、小・中学校で作成	各園、各校で作成済み	A
避難訓練の実施		市立幼稚園、小・中学校で年1回以上実施	年1回以上実施	
(達成度)				
防災マニュアルを作成し、市立幼稚園、小・中学校で防災訓練を実施した。				
(課題・改善点)				
防災マニュアルについては、周辺環境や時代の変化に合わせて、毎年見直しをする必要がある。また、避難訓練については、各学校の実態に即した計画・実施をしていく必要がある。				

34	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	⑤安全教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	学校における防犯教室の実施	開始年度	—	
事業内容	防犯意識を高めるため、市立幼稚園、小学校において、防犯技能を身につけるための防犯教室を開催する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
防犯教室の実施 （不審者対応避難訓練等も含む）	市立幼稚園、小・中学校で年1回	年1回	A	
（達成度）				
防犯教室、避難訓練も含めて、日頃から防犯対策の指導を行っている。いつ何時起こるかわからないため、継続した指導を行った。				
（課題・改善点）				
緊急の事態に児童生徒・教職員ともに対応できるよう、年度のなるべく早い時期から、防犯教室や防犯訓練の実施していく必要がある。				

35	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	⑥ジョイント・スクール推進事業の取組	所 管	学校教育課	
事業名	ジョイント・スクール推進事業の充実	開始年度	平成26年度	
事業内容	既存の3つの中学校区をそれぞれ1つの学園として、現行の6・3制を基盤に、義務教育9年間を見通した教育を行う。また、各学園において、9年間の児童・生徒の学びと成長、発達を考慮し、地域の特色を生かした小・中連携、交流活動を積極的に推進する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
各学園の連携を図るため、連携推進会議を設ける	連携推進会議の確実な実施(年3回)	年3回	A	
富里市小中連携共通生徒指導4項目の達成度	児童生徒意識調査による好意的な回答65%	65%		
(達成度)				
推進会議を計画通り年3回実施し、各学園におけるジョイント行事を実施することができた。 生徒指導4項目については、教職員や児童生徒の主観的要素があることから評価がばらつきやすい。客観的な視点など評価の統一を図る必要がある。				
(課題・改善点)				
ジョイントの内容の充実と生徒指導4項目をいかに意識させて指導するかが課題である。				

36	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	⑦次世代の子ども達の健康を推進するための対応	所 管	学校教育課	
事業名	小児生活習慣病予防のための取組	開始年度	令和4年度	
事業内容	小児生活習慣病予防のための研修会を講師を招いて実施し、教職員の意識啓発に努める。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
中学校2年生における小児生活習慣病予備軍の数値	現在の7割から削減する	67.5%	A	
(達成度)				
各校の養護教諭を通して、市内中学生の小児生活習慣病予備軍の割合等を伝えて、意識啓発を行うとともに、各校でも対策の取り組みを考え、小児生活習慣病予防に努めた。				
(課題・改善点)				
小児生活習慣病予備軍の数値については、7割から減少はしているが、依然として7割に近い数値であることから、今後も継続して推移をみていき、対策を考えていく必要がある。				

37	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	⑧安全に楽しく楽しむ食育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	安全な食材選びと衛生管理の徹底	開始年度	昭和48年度	
事業内容	学校給食に使用する食材について、納品時の検収の徹底に努め、食材や調理器具等の細菌検査を定期的に実施する。			
指 標	令和 7 年度目標	令和 7 年度実績（実施率）	総合評価	
検便細菌検査の実施回数	年24回（月2回）	年24回	A	
食品細菌検査の実施回数	年2回	年2回		
(達成度)				
学校給食衛生管理基準に基づき、給食従事者の衛生管理では、日常の健康管理とともに定期的な細菌検査等を実施し、食品に関しては、検収時の点検項目全てを記録し、肉・魚・野菜類を分類して保管するなど相互汚染を防ぐとともに、調理器具等の細菌検査を実施した。 これらにより、危険を未然に防ぐことや、食材の品質保持・衛生管理の徹底につながった。				
(課題・改善点)				
検査については、計画どおりに実施している。衛生管理や食材納品時の検収については、安心安全な給食提供のため、引き続き細心の注意をはらい、徹底して行う。				

38	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	⑧安全に楽しく楽しむ食育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	地場産物の活用の拡大	開始年度	昭和48年度	
事業内容	豊かな農産物に恵まれている富里市の利点を生かし、新鮮で生産者の顔の見える地場産品を給食へ積極的に活用する。			
指 標	令和 7 年度目標	令和 7 年度実績（実施率）	総合評価	
市内産の精米の使用割合	100%	100%	A	
市内産の生鮮野菜・精肉の使用割合	50%	47%		
(達 成 度)				
主食の一つである米飯については、全て富里産コシヒカリの一等米を使用しており、生鮮野菜や精肉も地元産を積極的に活用した。				
(課題・改善点)				
安心・安全と購入経費とのバランスが適切になるよう配慮しながら、米以外の食材についても地場産品の一層の活用を図る。				

39	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	⑧安全に楽しく楽しむ食育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	食に関する指導の推進	開始年度	昭和48年度	
事業内容	児童・生徒を対象に朝ごはんの重要性、食事のマナー、好き嫌いをなくすことや生活習慣病予防などをテーマに、発達段階や学習内容を考慮して系統的な食育の授業を行うほか、食を通じて地域を理解することや食文化の継承など食に関する指導を行う。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
食育指導等の回数	年84回	年84回	A	
給食だより等の配布	年25回	年26回		
(達成度)				
「富里市教育委員会食育推進プラン」に基づき食育を行っており、栄養士の授業はおおむね好評である。食育授業後はクラスに留まり、給食に関する指導を行った。 また、既存の広報媒体（給食だより・献立表）を用いて、食に対する意識を高めるよう指導した。				
(課題・改善点)				
栄養士が作成した食育DVDを使用する授業は行っているが、今後は、タブレット端末の利用によるデジタル教材の活用など、より効率的な手法で、更に食育の浸透を図っていくことが課題である。				

40	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	⑧安全に楽しく楽しむ食育の推進		所 管	学校教育課
事業名	食体験を豊かにする献立の充実		開始年度	昭和48年度
事業内容	給食献立に、行事食や伝統食、季節の食材を使用するメニューを積極的に取り入れることで、食文化の継承や、豊かな食体験の場としての給食時間を提供する。			
指 標		令和 7 年度目標	令和 7 年度実績（実施率）	総合評価
行事食等の提供回数		年24回	年30回	A
(達 成 度)				
学校給食法では、我が国の各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めることが、目標の一つとなっている。 月毎に定期に行事食・伝統食等を提供することで、食生活が食に係る人々の様々な活動のうえに成り立つことの理解につながった。				
(課題・改善点)				
各地域の産物、食文化や食に関わる歴史等を理解し、尊重する心を身に着けるため、既存の学校給食献立の充実とともに、更なる啓発を図っていく。				

41	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	⑨学校施設の整備	所 管	教育総務課	
事業名	学校施設の修繕・工事及び安全点検の充実	開始年度	平成19年度	
事業内容	小・中学校施設の維持管理に係る修繕及び工事について、緊急性や優先度を考慮の上、迅速に対応する。 また、施設等の安全点検を行い、安全性を確認するとともに、危険箇所については修繕等を行う。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
小学校施設・設備の修繕・工事及び安全点検の実施	7校	7校 ・修繕:33件・工事:3件	A	
中学校施設・設備の修繕・工事及び安全点検の実施	3校	3校 ・修繕:15件・工事:2件		
(達成度)				
学校施設及び設備については、日常点検及び法定点検を確実に実施するとともに、各学校からの報告・要望を確認し、現状把握に努めた。 点検における指摘事項や確認された不具合については、緊急性や優先度を考慮し、計画的に修繕等を実施した。				
(課題・改善点)				
建築後40年を超える校舎が半数を占め、老朽化が進行することから、計画的な予防保全・維持管理に努めるとともに、躯体の耐力度調査を行い、校舎の長寿命化改修計画の策定を目指していく。 不具合箇所等の修繕等については、引き続き、学校と協議し緊急性や優先度を十分に考慮、検討した上で実施していく。				

42	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	⑨学校施設の整備		所 管	教育総務課
事業名	学校施設の空調設備を設置		開始年度	令和6年度
事業内容	近年の猛暑の影響で学校生活においても子どもたちの活動が制限されていることから、空調設備がない場所への設置と耐用年数を超える空調機の計画的な更新を実施する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
小学校屋内運動場に空調機を設置	7校	7校	A	
中学校屋内運動場及び中学校柔剣道場に空調機を設置	3校	3校		
(達成度)				
小中学校の屋内運動場及び中学校の柔剣道場に新規空調設備を設置し、7月から本格稼働を開始し、児童生徒、市民や団体等が利用しやすい環境改善を図った。				
(課題・改善点)				
空調機についてはリース物件と購入物件が混在している。日々の点検等メンテナンスに努め、良好な運転を維持するとともに、リース物件については、リース期間満了後の保守点検方法を、購入物件については耐用年数等を考慮し更新検討が必要である。				

43	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2)健全な心と体を育む			
	⑨学校施設の整備	所 管	教育総務課	
事業名	学校敷地内の計画的な樹木管理	開始年度	—	
事業内容	敷地外に張り出した支障枝の剪定や倒木の恐れがある枯木等の伐採を優先的に行いながら、視界の妨げとなる樹木及び適正な樹高を超える高木等について各校の状況を把握し、今後の維持管理について計画的に管理する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
小学校の樹木環境の調査	7校	7校 ・支障枝：適正な剪定14件 ・枯木：伐採：なし	A	
中学校の樹木環境の調査	3校	3校 ・支障枝：適正な剪定2件 ・枯木：伐採：なし		
(達成度)				
支障枝については、学校及び教育委員会により適正な剪定を実施した。 高木の伐採については、調査に基づき、優先順位を考慮し、計画的に樹木剪定を行った。				
(課題・改善点)				
季節により樹木の成長が著しいことがあるため、支障枝や倒木の恐れがある高木等がないか、定期的な調査と合わせ、学校との連携を密にし、日々、点検・確認を行い、樹木等の適正な維持管理に努める。				

44	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(3)地域に開かれた学校づくり			
	①学校開放や地域公開	所 管	学校教育課	
事業名	学校での地域公開授業の実施	開始年度	令和2年度	
事業内容	保護者や地域の方々に授業や学校行事を積極的に公開し、社会に開かれた教育課程を編成することで、学校だけでなく地域全体で子どもを育てていく。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
授業や学校行事を3回以上地域公開した学校数	10校	10校	A	
(達成度)				
地域や保護者の方々に授業や学校行事を3回以上公開した。				
(課題・改善点)				
引き続き学校行事等について地域、保護者へ幅広く周知していく。				

45	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(3)地域に開かれた学校づくり			
	①学校開放や地域公開	所 管	学校教育課	
事業名	学校支援ボランティア活用の推進	開始年度	平成20年度	
事業内容	学校の教育活動や環境整備について、保護者及び地域の人材がボランティアとして活動することを支援する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
ボランティアを活用した活動を実施した学校数	10校	10校	A	
(達成度)				
除草作業等の環境整備を中心に活動を行った。より効果的かつ継続的な活動になるよう、市公式ホームページに各校で希望している内容を掲載し、ボランティア人材の確保を進めた。				
(課題・改善点)				
市公式ホームページに掲載した内容だけでなく、各学校では、自主的な活動が増えてきている。次年度へ引き継ぐためにも記録していく必要がある。				

46	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(3)地域に開かれた学校づくり			
	②コミュニティ・スクールの推進		所 管	学校教育課
事業名	学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の推進		開始年度	令和4年度
事業内容	教育委員会及び学校の校長の権限と責任の下、学校に在籍する児童、生徒の保護者等の地域住民の学校運営への参画、支援及び協力を促進することにより、学校運営の改善及び児童、生徒の健全育成に取り組む。			
指 標		令和7年度目標	令和7年度実績(実施率)	総合評価
学校運営協議会開催回数		各学校運営協議会年3回	年3回以上	A
(達成度)				
各学校での会議開催回数については、予定通り開催できた。学校運営協議会委員の意見や協力を得ることにより、各学校の教育活動に進展が見られた。学校と地域のパイプ役、地域情報の収集、地域団体との連携など、目に見えない形での支援や協力が地域ぐるみの教育を充実させた。				
(課題・改善点)				
各学校の運営協議会がそれぞれの地域の実情に応じ、学校運営への参画や改善点等を、今後も引き続き、検討していかなければならない。				

47	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(3)地域に開かれた学校づくり			
	②コミュニティ・スクールの推進	所 管	学校教育課	
事業名	学校評価の実施と情報提供	開始年度	平成15年度	
事業内容	地域に開かれ、信頼される学校づくりを進めていくことを目的として、各幼稚園、小・中学校において学校評価を実施し、学校・園の改善に努める。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
自己評価の実施と公表	2園、10校	2園、10校	A	
学校関係者評価の実施と公表	2園、10校	2園、10校		
(達 成 度)				
確実に各園、各校において自己評価を行い、公表することができた。また、学校運営協議会委員の意見や協力を得ることにより、各学校の教育活動に進展が見られた。				
(課題・改善点)				
今後も継続的に実施し、開かれた教育課程を実現し、地域とともに築き上げていけるように体制を整えていくことが必要である。				

48	目 標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(3)地域に開かれた学校づくり			
	③地域一体のキャリア教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	中学生を対象とした「わくわくWorking！（富里市職場体験学習）」の充実	開始年度	平成18年度	
事業内容	中学2年生を対象に職業人による講話や体験活動を効果的に行い、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や職業観を育てる。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
キャリア教育の実施	中学校（3校）	3校実施	B	
（達成度）				
職業人による講話や体験等、学校の規模によっても変わるがそれぞれの学校で職業観を育てる活動を行った。また、学校によってはNPO法人に力を借りて、学校全体でキャリア教育に力を入れた。				
（課題・改善点）				
今後も、子どもたちの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や職業観を育てられる取り組みをしていく必要がある。				

49	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(3)地域に開かれた学校づくり			
	③地域一体のキャリア教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	小学生を対象とした「ゆめ・仕事びったり体験(地域密着観察学習)」の実施	開始年度	平成21年度	
事業内容	小学校6年生を対象に職業人による講話や体験活動を効果的に行い、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や職業観を育てる。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
キャリア教育の実施	小学校(7校)	7校実施	B	
(達成度)				
職業体験に限らず、学級活動による職業調べや職業人による講話や体験、校外学習など、様々な活動により、職業観を育んだ。				
(課題・改善点)				
職業選択だけがキャリア教育ではないので、特別活動、総合的な学習の時間、学校生活の中からも学習を進めていく。 単に実施するだけでなく、明確な形を作っていく必要がある。講話や体験等、効果的な学習方法を考えていく。				

50	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4)生涯学習の推進			
	①いつまでも学べる環境整備	所 管	生涯学習課	
事業名	学びを通じた人づくり	開始年度	平成18年度	
事業内容	学んだことを自らの力とし、地域のために発揮し、生涯にわたって輝き続ける人材の育成を目的に創年セミナーを開催する。 また、個人が習得した技術・知識を広く活用してもらえるようボランティア講師としての登録を促し、登録された講師を必要としている市民、団体へ紹介し、社会活動への参画を通じて、連携・協働のまちづくりの応援をする。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
創年セミナー開催回数	16回	16回	A	
創年セミナー受講生の満足度	80%	87.5%		
(達成度)				
令和7年度は、健康、介護予防、食育、創作、体験、歴史、音楽、芸術、芸能、文化、環境、スポーツ、視察の13項目を基本に講座を組み立て、受講者の学びを支援した。 受講者に受講記録とアンケート調査を実施した結果、満足度が高く、また、学んだことを日常の活動の中で伝えるなど、自らの生活を豊かにできている様子がみられた。				
(課題・改善点)				
次年度への意見、要望を取りまとめるなど、企画段階から受講者のニーズを反映し、魅力ある講座づくりを図っているが、受講者の固定化が進んでいることから、次年度は一部講座を公開講座としてより多くの市民に学びの場の提供を図る。				

51	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4)生涯学習の推進			
	①いつまでも学べる環境整備	所 管	生涯学習課	
事業名	「とみっこ大学」の実施と歴史・文化学習	開始年度	平成29年度	
事業内容	様々な創作活動、理科・科学実験、環境学習など子どもの学ぶ力、生きる力を育む体験学習を中心とした「とみっこ大学」を実施する。 また、小学5年生以上を対象に岩崎久彌氏や岩崎家にゆかりのある旧岩崎邸庭園などの東京都内にある施設を訪れ、岩崎家が社会貢献を行ってきたことなどを学習する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
とみっこ大学参加児童の満足度	80%	80%	A	
ふるさと富里再発見参加児童の満足度	80%	80%		
(達成度)				
とみっこ大学では、児童同士が話し合い、一つの作品を作り上げるなどの共同活動を多く取り入れたことで、コミュニケーション力や対応力の向上がみられた。 また、ふるさと富里再発見では試行的に小学4年生も対象とし、総勢10名が岩崎家と富里市のつながりを学ぶことができた。				
(課題・改善点)				
講座内容については、参加児童及び保護者のアンケートを基に、より学習意欲を刺激できる内容へと見直していく。				

52	目 標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4)生涯学習の推進			
	②学びの成果を活かす環境づくり		所 管	生涯学習課
事業名	学びを通したまちづくり		開始年度	平成18年度
事業内容	いつでも、どこでも、誰でもがともに学びあうまちづくりを目指し、知識、技能及び技術を有する者の能力を活用することにより、市民一人ひとりの生涯学習を支援し、豊かな地域社会をつくることを目的として、富里市生涯学習アシスト事業を実施する。			
指 標		令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価
アシスト事業の周知		2回	1回	C
(達 成 度)				
市広報及び市公式ホームページを活用し事業について周知したが、令和7年度は講師派遣につながらなかった。				
(課題・改善点)				
生涯学習アシスト事業について、講師登録する側、利用する側ともに知られていないのが現状である。周知の方法を見直すとともに、ボランティア団体等との連携に努める。				

53	目 標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4)生涯学習の推進			
	③公民館事業の充実	所 管	生涯学習課	
事業名	サービスの適正化	開始年度	令和5年度	
事業内容	公民館施設の利便性向上、利用拡大に努める。			
指 標		令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価
予約システム利用率		90%	100%	A
(達成度)				
予約システムによる申請の利用の促進と周知に努めた結果、利用者に浸透している。				
(課題・改善点)				
公民館の利用者は高齢者が多いため、パソコンやスマートフォンでの操作についての相談が多数寄せられている。今後は、公開講座などを活用し利便性に努める。				

54	目 標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4)生涯学習の推進			
	④図書館資料の整備	所 管	図書館	
事業名	図書館資料等の充実	開始年度	平成14年度	
事業内容	資料及び情報の収集・提供に当たっては、市民の学習活動を適切に支援するため要望に応えられるよう努めていくとともに図書館機能に生涯学習機能を付した上で、それぞれの機能が活かされるよう事業の実施に努める。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
入館者数	194,000人	190,227人	B	
貸出冊数	153,000冊	152,323冊		
(達成度)				
入館者数及び貸出冊数共に届かなかったが、おおむね指標に近い数値を達成した。				
(課題・改善点)				
入館者数が減少により貸出数も減少しているので、利用者が求める資料の収集・提供機能の強化により、ニーズに応える読書環境づくりを行うよう努める。				

55	目 標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4)生涯学習の推進			
	⑤図書館(とみらいテラス)事業の充実	所 管	図 書 館	
事業名	情報・文化・芸術の発信拠点づくり	開始年度	令和4年度	
事業内容	文化・芸術を含めた情報発信拠点として、施設の利活用の推進を図る。包括連携協定を結んでいる日本大学藝術学部との連携による展示や、生涯学習課との連携による展示等で、市民が芸術・文化と触れ合える場を創出し、利用者層の拡大を図る。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
鑑賞者数	35,000人	29,166人	C	
(達成度)				
令和6年3月末までの35,836人と比較すると、鑑賞者数の減少傾向が見られた。				
(課題・改善点)				
鑑賞者のニーズに応えられるような内容の催し物を企画し、鑑賞者の減少に歯止めをかけていく。				

56	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4)生涯学習の推進			
	⑤図書館(とみらいテラス)事業の充実	所 管	図書館	
事業名	子どもが読書に親しむ機会と連携体制の充実	開始年度	平成14年度	
事業内容	読書習慣は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付ける上で欠くことができないものであり、早期での読書習慣と図書館の利用習慣につながるよう事業を行う。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
ブックスタート事業達成割合(参加者数/受診対象者数)	94%	93%	B	
ブックトリップ事業達成割合(達成者数/全児童・生徒数)	50%	54%		
(達成度)				
おおむね順調に推移した。 ※実施期間:7月19日～11月7日まで				
(課題・改善点)				
ブックスタート事業がわずかに指標に届かなかったが、ブックトリップ事業割合は指標の数値を上回っているので、 今後は現状の取り組みを充実させて、事業展開していく。				

57	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4)生涯学習の推進			
	⑤図書館(とみらいテラス)事業の充実		所 管	図書館
事業名	親子読書支援の充実		開始年度	令和4年度
事業内容	親子が本と触れ合える場としての役割を強化する。親子が様々な本と触れ合う機会をサポートし本に親しみ、親子の読書活動と図書館利用を推進する。			
指 標		令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価
児童書の貸出冊数		36,000冊	34,156冊	B
親子読書支援コンシェルジュ支援件数		3,500件	4,010件	
(達成度)				
親子読書支援コンシェルジュによる親子へのサポートは順調に実施できた。				
(課題・改善点)				
親子読書支援コンシェルジュ支援件数は指標の値を上回っているが、児童書の貸出冊数は指標に届かなかったため、利用者のニーズに応える選書作業を行い貸出冊数の増につなげていく。				

58	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4)生涯学習の推進			
	⑤図書館(とみらいテラス)事業の充実	所 管	図書館	
事業名	学校図書室等への支援	開始年度	平成14年度	
事業内容	図書館が所蔵する団体貸出用資料を各小・中学校、幼稚園、こども園に配送し貸出を行う。身近に本とふれあえる機会の提供と読書活動を支援する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
貸出団体数	140件	130件	B	
貸出冊数	7,000冊	6,463冊		
(達成度)				
団体貸出用図書をテーマごとに分けたセットを作り、よむよむ便は各小学校に年3回、中学校定期便は各中学校に年2回、らっこ便は幼稚園、こども園へ年3回、学童便は希望のあった学童クラブへ年5回、調べ学習利用等に加え、利用促進を目的とした図書館活用便による配送を行った。目標値には届かなかったが、目標値に近い数値を達成することができた。				
(課題・改善点)				
学校との連携を強化し、件数及び貸出冊数の増につなげていく。 また、電子書籍の導入を検討し、学校図書室に所蔵のない本についても読むことができる読書環境づくりを進めていく。				

59	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4)生涯学習の推進			
	⑥社会教育施設の整備	所 管	生涯学習課	
事業名	公民館施設の適正な維持管理	開始年度	平成24年度	
事業内容	公民館施設・設備について、安全点検等を行い、緊急性や優先度を考慮の上、迅速に対応する。 また、施設等の安全性を確認するとともに、危険箇所については修繕等を行う。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
修繕実施率（修繕実施数及び適格施設数/点検等回数）	80%	71%	A	
設備不備による休館日数	0日	0日		
(達成度)				
施設点検を確実にし、指摘箇所の修繕を行った。年度内に指摘箇所全部の修繕を行うことはできなかったが、設備不備による休館はなく、公民館開館をすることができた。				
令和7年施設点検等				
①給水設備点検 ②講堂空調機点検 ③昇降機定期点検 ④消防用設備等点検				
⑤特定建築物(建築設備)点検⑥特定建築物(防火設備)点検 ⑦舞台設備点検 ※①・⑥要是正の指摘あり				
(課題・改善点)				
老朽化に伴い、修繕箇所及び修繕費が増加している。特に受水槽及び雨水排水系統の腐朽が進んでおり、漏水の被害が懸念されるため根本的な改修が必要である。				
併せてトイレの洋式化改修を進めることで、利用者が快適に利用できるよう努める。				

60	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4)生涯学習の推進			
	⑥社会教育施設の整備	所 管	図書館	
事業名	図書館施設の適正な維持管理	開始年度	平成15年度	
事業内容	利用者が安全・快適に施設を利用できるように、定期的を実施している点検等の結果を踏まえ、緊急性に応じて適切に修繕工事を実施する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
修繕実施率 (修繕実施数/点検指摘数)	80%以上	71%	A	
設備不備による休館日数	0日	0日		
(達成度)				
点検結果を踏まえ、修繕を進めたが指標の数値には届かなかった。 令和7年施設点検等 ①消防設備点検 ②給水設備点検 ③空調設備保守点検 ④昇降機保守点検 ⑤自動ドア保守点検 ⑥電気工作物保安点検 ⑦特定建築物(建築設備)点検 ⑧特定建築物(防火設備)点検 ※③・⑤・⑥要是正の指摘あり (課題・改善点) 修繕実施率が指標の数値に届くよう、前述の空調設備も含め、より計画的に修繕を進めていく。				

61	目 標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5)文化・芸術の振興			
	①文化・芸術の創造	所 管	生涯学習課	
事業名	文化祭等の文化活動発表の場の充実	開始年度	昭和42年度	
事業内容	自立した活動を行う文化団体や個人に対し、活動成果発表の場として市文化祭等を開催する。			
指 標	令和 7 年度目標	令和 7 年度実績（実施率）	総合評価	
来場者数	延べ1,500人	延べ6,118人	A	
(達 成 度)				
文化祭については33団体からの参加申込があり、展示・行事・発表部門に分かれて団体活動の発表を行った。 また、こども達と創る藝術事業「こども演劇」、図書館で実施した児童生徒作品展についても文化祭の位置づけとして事業の充実を図った。				
(課題・改善点)				
参加団体の高齢化が進み、参加自体が厳しい状態にある。 また、児童生徒作品展がとみらいテラスに移動したことで、公民館開催の文化祭への親子での来場者数が減少した。 若い世代の来場者が増えるよう、子どもの参加できる内容について再考する必要がある。				

62	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5)文化・芸術の振興			
	①文化・芸術の創造	所 管	生涯学習課	
事業名	芸術作品鑑賞機会の創出	開始年度	平成20年度	
事業内容	富里市内及び近隣市町に在住する芸術家の作品を展示し、これらの芸術家の存在を広く市民に伝えるとともに、質の高い芸術作品の鑑賞機会を創出する。 また、市立図書館の一部をギャラリーとして活用し、良質な芸術作品の鑑賞機会を身近に提供する。			
指 標	令和 7 年度目標	令和 7 年度実績（実施率）	総合評価	
来場者数	延べ8,000人	延べ11,196人	B	
(達 成 度)				
芸術鑑賞事業について、芸術作品展示を4回(4月、7月、10月、1月)実施し、延べ11,196人の来場があった。その他令和7年度からは新たに芸術体験を3回(7月、9月、10月)実施し45人の参加があった。 また、とみらいテラスを会場に演奏会を1回、芸術家による講座を1回実施し、多くの市民が芸術に触れる機会を創出した。				
(課題・改善点)				
芸術鑑賞事業について、目標数値には達したが、令和6年度と比較すると来場者は減少した。 今後は、より市民のニーズに応えるものを開催する必要がある。				

63	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5)文化・芸術の振興			
	②文化資源の保守	所 管	生涯学習課	
事業名	無形民俗文化財継承事業への支援	開始年度	昭和55年度	
事業内容	市指定文化財である「久能獅子舞」及び「中沢麦つき踊り」両保存会の継承活動事業に対し、経費の一部を補助して活動を支援する。 また、後継者の育成について保存会とともに検討する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
活動回数	久能獅子舞：年2回 中沢麦つき踊り：年1回	久能獅子舞：2回実施 中沢麦つき踊り：1回実施	A	
(達成度)				
久能獅子舞は久能駒形神社にて4月と8月に実施され、中沢麦つき踊りは10月に実施されたほか、市産業まつりで披露され、普及・周知活動に務めた。 両団体共に、富里市の無形民俗文化財を継承するため、活動を行っており、経費の補助を行うことで活動を支援した。				
(課題・改善点)				
両団体共に、高齢化と担い手不足が課題となっているが、久能獅子舞では運営の一部を地区の若手が担い、中沢麦つき踊りでは市のイベントに出演する等、普及・周知活動に努め、課題に対して取り組んでいる。 今後も文化財保存継承のための補助事業を継続し、保存と後継者育成を支援していく。				

64	目 標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5)文化・芸術の振興			
	②文化資源の保守	所 管	生涯学習課	
事業名	文化財の保護	開始年度	—	
事業内容	富里市文化財保存活用地域計画に定めた文化資源の保存に関する措置を着実に実施し、歴史的価値の高い文化資源を後世に確実に伝える。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
地域計画中、保存に関する措置の開始件数	6件	7件	A	
(達成度)				
市指定文化財である円勝寺聖徳太子二歳立像の県指定に向けた事前調査を行い、報告書の刊行や資料のデジタル化などに取り組んだ。				
(課題・改善点)				
地域計画で設定している保存に関する措置について、所有者や関係団体との調整が必要なものがあるため、長期的に継続した協議が必要である。				

65	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5)文化・芸術の振興			
	②文化資源の保守	所 管	生涯学習課	
事業名	埋蔵文化財の保護	開始年度	昭和49年度	
事業内容	開発行為に伴って未発掘の可能性がある遺跡について、現状保存ができるように事業主と協議し、現状保存が困難な場合には発掘調査を実施して遺跡の記録保存に努める。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
文化財包蔵地確認件数	400件	472件	A	
(達成度)				
開発を予定している事業者が開発箇所を照会してもらい、遺跡に係る箇所については事業主と協議した。現状保存が困難な場合は、試掘調査や工事立会、確認調査を行い、遺跡の記録保存に努めた。				
(課題・改善点)				
システム上の地図を更新したことで、事業者の所有する地図との齟齬がなくなり、照会に対し、遺跡に係る箇所について、より正確な回答をすることができるようになった。引き続き、事業者に対し、遺跡上で工事を行う場合は協議、説明を行う。				

66	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5)文化・芸術の振興			
	②文化資源の保守	所 管	生涯学習課	
事業名	各種文化財の実態調査	開始年度	平成28年度	
事業内容	富里市文化財保存活用地域計画を作成し、文化庁の認定を受けたことから、この中で定めた指定文化財とするための詳細調査や総合把握のための調査を実施し、その成果を台帳化や地理情報システムへのデータ登載を図る。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
詳細調査及び総合的把握調査開始件数	2件	2件	A	
(達成度)				
地域計画策定時の目標である4件の文化財指定に向けて、令和5年度に開始した2件の調査・研究について、令和7年度も継続して実施した。				
(課題・改善点)				
文化財の管理については、調査・研究から指定等まで複数年に渡る取組となり、更にはシステムへのデータ反映まで、着実に進めていくための進捗管理が必要である。				

67	目 標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5)文化・芸術の振興			
	③文化資源の活用	所 管	生涯学習課	
事業名	郷土資料の展示	開始年度	令和2年度	
事業内容	富里市郷土資料展示室の定期的な展示品の交換により、より多くの郷土資料に直接触れ合える機会を提供する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
展示入替え回数	8回	8回	A	
(達成度)				
掛軸を2か月に1回、刀を3か月に1回、古文書を半年に1回展示替えを行った。4月には初めてとなる獅子頭の展示を行うなど、様々な郷土資料に触れる機会を提供した。 また、市公式ホームページや市広報での周知に加え、10月に行った展示替えに合わせて資料展示室便りを発行し、市内の施設に配布するなど、展示室の周知に努めた。				
(課題・改善点)				
展示室の活用として、企画展示等を行うなど、来場者を増やす施策を検討する。				

68	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5)文化・芸術の振興			
	③文化資源の活用	所 管	生涯学習課	
事業名	旧岩崎家末廣別邸の公開	開始年度	平成29年度	
事業内容	国登録有形文化財である「旧岩崎家末廣別邸」を整備し、機能の維持及び活用を図る。 令和7年4月26日から主屋の一般公開を開始した。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
主屋公開日数	278日	274日 （気象による臨時休館4日）	A	
(達成度)				
令和7年4月26日の主屋一般公開以降、延べ4,292人の入館者があった。 また、主屋を活用した催しとして、ミニ演奏会や夜間特別公開、通常非公開の箇所も公開する特別ガイドツアーなどの事業も行い、積極的な公開に努めた。				
(課題・改善点)				
主屋の一般公開後は来場者アンケートを実施しているが、文化財の保護、活用について良い印象の意見をいただいている。 東屋・石蔵機能維持のための整備については未着手のため、今後行っていく必要がある。				

69	目 標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5)文化・芸術の振興			
	③文化資源の活用		所 管	生涯学習課
事業名	文化財を活用した学習支援		開始年度	—
事業内容	旧岩崎家末廣別邸での学習や市内で出土した様々な埋蔵文化財、寄贈された民具、収集した写真資料を活用した郷土の歴史教育支援を行う。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
歴史教育支援回数	10回	32回	A	
(達成度)				
市内小学校の校外学習や家庭教育学級、教職員向けの研修で旧岩崎家末廣別邸を活用し、郷土の歴史教育支援を実施した。市内小学校や台東区の小学校の校外学習対応など、29団体にガイドを実施した。				
(課題・改善点)				
旧岩崎家末廣別邸においては、学習の場として広く活用されているが、民具等を活用した歴史教育支援については、小学校等からの依頼がなかったため、今後は学校への周知などを図っていく必要がある。				

70	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6)スポーツの振興			
	①生涯スポーツ体制の整備	所 管	生涯学習課	
事業名	スポーツ推進委員の資質向上を目的とした研修会等への参加	開始年度	昭和53年度	
事業内容	スポーツ推進委員が研修会・講習会へ積極的に参加することにより、時代のニーズに即したニュースポーツの習得や適切な指導方法の研鑽を図る。また、市民からの要請に応じた指導やスポーツの普及に努める。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
研修参加回数	3回	2回	B	
ニュースポーツ体験の実施回数・参加者数	4回・20人	3回・76人		
(達成度)				
研修会や講習会へ参加のほか、とみっ子大学内でのニュースポーツ体験やボッチャ体験・大会を企画し、目標を超える参加がありスポーツの普及に寄与した。				
(課題・改善点)				
スポーツ推進委員の研修への参加回数が目標を下回る実績となったため、今後も委員への研修周知を継続し、指導方法の研磨を促していく。				

71	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6)スポーツの振興			
	①生涯スポーツ体制の整備		所 管	生涯学習課
事業名	総合型地域スポーツクラブの設立支援と育成		開始年度	平成22年度
事業内容	総合型地域スポーツクラブの運営支援を行う。また、地域コミュニティの場として、定期的・継続的にスポーツ活動ができるよう、身近な公共スポーツ施設を活動拠点として提供する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
富里南桜クラブの会員数	30人	28人	B	
(達成度)				
目標数に近い会員数を維持し、定期的に活動を行えるよう運営支援を実施した。				
(課題・改善点)				
活動は継続的に行うことができているが、会員数を増やすために、周知の仕方を協議・検討する。				

72	目 標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6)スポーツの振興			
	①生涯スポーツ体制の整備	所 管	生涯学習課	
事業名	スポーツ・レクリエーション活動を中心とした生涯スポーツの普及	開始年度	昭和55年度	
事業内容	水泳教室のほか、年齢や体力に応じた軽スポーツの楽しさや魅力を体験できるよう各種事業を開催し、いつでも、どこでも気軽にできるスポーツの普及に努める。			
指 標	令和 7 年度目標	令和 7 年度実績（実施率）	総合評価	
水泳教室参加者数、スポーツ鬼ごっこ大会参加者数	延べ200人	延べ251人	A	
(達 成 度)				
水泳教室・大会ともに熱中症警戒アラート発令により中止となったが、軽スポーツ体験の機会として、スポーツ鬼ごっこ大会を実施し、目標を超える多くの参加者があった。				
(課題・改善点)				
水泳教室・大会のあり方について検討を進めるとともに、誰もが気軽にスポーツを継続できるよう、様々なスポーツの魅力に触れる機会を創出し、スポーツの普及に努めていく。				

73	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6)スポーツの振興			
	②健康・体力づくりとスポーツ活動の促進		所 管	生涯学習課
事業名	「とみさとスポーツ健康フェスタ」の充実		開始年度	昭和39年度
事業内容	市民の誰もが気軽に参加でき、健康と体力づくりに対する理解と関心を深め、積極的にスポーツを実践するきっかけづくりの場として「とみさとスポーツ健康フェスタ」を実施する。			
指 標	令和 7 年度目標		令和 7 年度実績（実施率）	総合評価
参加者数	400人		434人	B
(達成度)				
新たに「スポーツ鬼ごっこ」を導入し、目標参加者数を超える参加があり、スポーツにふれあう場の提供に努めた。				
(課題・改善点)				
若年層の参加が少ないことが課題であり、開催種目を検討し、幅広い年代に参加してもらえるよう努める。				

74	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6)スポーツの振興			
	②健康・体力づくりとスポーツ活動の促進	所 管	生涯学習課	
事業名	大学との連携事業による体力の向上とスポーツライフの充実・発展	開始年度	令和4年度	
事業内容	国内外で活躍する、多くのトップアスリートを輩出する、また在籍する日本大学競技部所属学生によるスポーツ教室を開催し、市民がスポーツをすることの楽しさを感じ、またスポーツ活動を通し、市民、市の活力の向上健康の維持・増進を図る。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
教室の開催回数	1回	1回	A	
参加者数	50人	83人		
(達成度)				
とみさとスポーツ健康フェスタにおいて、市陸上競技部によるかけっこ教室を開催し、目標を超える多くの参加者があった。				
(課題・改善点)				
かけっこ教室以外の種目等について検討を進める。				

75	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6)スポーツの振興			
	②健康・体力づくりとスポーツ活動の促進	所 管	生涯学習課	
事業名	スポーツ団体支援による活動の活性化	開始年度	平成20年度	
事業内容	市広報及び市公式ホームページ等を活用し、市スポーツ協会主催の大会や教室への市民参加を促進させる。また、全国大会等に出場する選手等への奨励費の交付や市内のスポーツ団体及び個人の優れた功績などを広く市民に紹介して、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、競技人口の増加・技術の向上を図る。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
大会・教室の開催回数	50回	75回	A	
全国大会等出場選手や優れた成績を収めた選手の周知回数	10件	12件		
(達成度)				
大会・教室は定期的に行われ、競技人口の増加・技術の向上が図れた。また、全国大会等に出場する選手について、活動の内容や表敬訪問の様子などを市広報や市公式ホームページにて周知し、市民のスポーツに対する興味・関心の高揚を図った。				
(課題・改善点)				
大会・教室の開催を継続するとともに、優れた成績を収めた選手のPRを行うことでスポーツへの興味・関心を高めていく。				

76	目 標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6)スポーツの振興			
	③学校体育施設開放事業の促進	所 管	生涯学習課	
事業名	学校体育施設の効果的利用の促進	開始年度	昭和50年度	
事業内容	各種スポーツ団体からの利用申請を調整し、学校体育施設を含めた体育施設の効率的な利用を促進する。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
学校体育施設開放利用団体の登録数	延べ70団体	延べ80団体	A	
(達成度)				
学校体育施設開放利用団体登録数は目標を超えており、現状では市内小中学校の全ての曜日・時間帯において利用申請が埋まっている。				
(課題・改善点)				
体育施設の効率的な利用を継続するとともに、既存団体と新規団体との利用調整を図る。				

77	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6)スポーツの振興			
	④スポーツ施設の整備	所 管	生涯学習課	
事業名	スポーツ施設予約システムの定着と施設利用の拡大	開始年度	令和4年度	
事業内容	富里社会体育館や市営運動場をはじめ、市内公共スポーツ施設の利用申請方法にオンラインによる方法を導入し、運用を開始する。各施設の利用予約、空き情報もリアルタイムで発信することで、施設利用者は、いつでもどこでも情報を取得し、サービスを楽しむことができる。システム導入に当たっては、誰もが操作しやすいと感じるシステムを構築し、利用の促進と周知を行う。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
オンライン申請件数	2,500件	4,172件	A	
(達成度)				
オンラインによる予約申請の利用の促進と周知に努めることができた。				
(課題・改善点)				
施設利用の拡大につながるよう、施設予約の方法をさらに周知していく。				

78	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6)スポーツの振興			
	④スポーツ施設の整備	所 管	生涯学習課	
事業名	社会体育施設の整備充実	開始年度	平成31年度	
事業内容	社会体育施設を良好な状態で貸し出すことで、利用者の安全を確保する。また、施設の利用率を上げることで、明るく豊かな市民生活の向上を目指すことを目的として今後の改修計画を策定し、適切な取り組みを推進していく。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
施設・設備の修繕・工事件数	10件	19件	A	
利用件数・人数	2,500件・66,000人	4,172件・68,480人		
(達成度)				
施設の修繕を行い、利用者の安全な利用確保に努めることができた。				
(課題・改善点)				
施設の利用率を向上させるために、細部まで修繕・改修を行っていく。				

79	目標	5 健全な心と体を育む青少年健全育成の取組		
重点項目	(7) 青少年の健全育成の推進			
	① 思いやりのある青少年の育成	所 管	生涯学習課	
事業名	青少年相談員活動の推進	開始年度	昭和38年度	
事業内容	体験活動を異学年と経験することを通じて、人間関係の形成や人を思いやる心を養うことを目的として、青少年相談員連絡協議会の主催事業を実施する。 また、それぞれの小学校区においても、学校、家庭、地域と連携して、キャンプやバザーなどの体験活動や防犯パトロールなどの青少年健全育成活動を行う。			
指 標	令和 7 年度目標	令和 7 年度実績（実施率）	総合評価	
主催スポーツイベント参加者数	50名	35名	B	
主催スポーツイベント参加者の満足度	80%	87.5%		
(達成度)				
参加者の満足度は高く、中高生ボランティア等、学生の参加もあり、異世代交流の機会を創出できたが、イベントの参加者数が伸び悩んでいる。				
(課題・改善点)				
良好な雰囲気楽しんで行うことはもちろん、安全管理面も引き続き徹底することができるよう、募集人数及び人員配置等役割を検討する。 また、主催行事の内容の見直しを行っていく。				

80	目 標	5 健全な心と体を育む青少年健全育成の取組		
重点項目	(7)青少年の健全育成の推進			
	②家庭教育の場の提供	所 管	生涯学習課	
事業名	家庭教育の充実	開始年度	昭和39年度	
事業内容	子育てに関する学習機会と仲間づくりの場となる家庭教育学級を、各市立幼稚園及び小・中学校に開設する。併せて講演会や子育て学習会を開催し、子育てに関する学びの場を提供する。 また、子どもたちの生活リズムの維持と向上を図るため「早寝・早起き・朝ごはん」運動の周知を図る。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
家庭教育学級での学習会開催数	48回	53回	A	
講演会参加者の満足度	80%	85%		
(達成度)				
市内の小学校7校、中学校3校、幼稚園2園の合わせて12学級を開級し、学習会を目標以上に開催できた。また、参加者からも好評であり、充実した活動となった。				
(課題・改善点)				
家庭教育学級学習会・講演会ともに、より多くの保護者が参加できるよう体験活動やグループワークを取り入れたり、要望の多いテーマを取り入れるなど、様々なニーズに応えるための更なる工夫を行っていく。				

81	目標	5 健全な心と体を育む青少年健全育成の取組		
重点項目	(7) 青少年の健全育成の推進			
	③地域社会と家庭教育の連携	所 管	生涯学習課	
事業名	放課後子ども教室の推進	開始年度	平成20年度	
事業内容	少子化や核家族の進行、高度情報化などにより、子どもを取り巻く環境が変化している中で、子どもたちが放課後に、地域の大人や異学年との関わりの中で社会性や協調性などを身に付け、体験活動を通じて心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進していく。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
放課後子ども教室開催日数	70回 (10回×7校)	50回	B	
参加児童の満足度	80%	81%		
(達成度)				
放課後子ども教室開催日数は目標値に届かなかったが、満足度は目標値を超えることができた。活動を通じて、「様々なことを学ぶことができる」や「様々な方と話すことができた」などといった好意的な声を多く聞いた。				
(課題・改善点)				
これからも児童の満足度を上げていけるように、できる限り参加者の意見を取り入れ、内容を見直すなど対応を行っていく。				

82	目 標	5 健全な心と体を育む青少年健全育成の取組		
重 点 項 目	(7) 青少年の健全育成の推進			
	③地域社会と家庭教育の連携	所 管	生涯学習課	
事業名	「とみっこ宣言」の周知・定着	開始年度	平成28年度	
事業内容	学校・家庭、地域がそれぞれの責任と役割を自覚し、富里市の未来を担う子どもたちの育成を図るための「とみっこ宣言」を広く周知し、定着させて、学校、家庭、地域がさらに連携して子育てに取り組めるように支援していく。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
家庭教育学級・講演会等での周知回数	26回	17回	B	
とみっこ宣言の書面配布、講話等周知手段	2方法	2方法		
(達成度)				
家庭教育学級説明会や各学級の開級式でとみっこ宣言文を配布し、趣旨等の説明を行うとともに、家庭教育だよりの紙面にとみっこ宣言文を4回掲載し、周知を図った。				
(課題・改善点)				
今後も講演会や家庭教育学級等でのとみっこ宣言文周知を継続するとともに、保護者や講演会参加者以外の方への周知を図っていく。				

83	目標	6 平和・人権意識の向上への取組		
重点項目	(8)平和・人権意識の向上			
	①国際化社会に対応する子どもへの支援	所 管	生涯学習課	
事業名	英語体験活動の実施	開始年度	令和5年度	
事業内容	国際対話能力の涵養と、異文化に対する理解を深めることなどを目的として、「とみさとザ・ワールド・キッズ」や「英語ふれあいDay」を実施していたが、もっと参加しやすいものとするために、「放課後子ども教室」の学習・体験活動に取り込む。			
指 標	令和7年度目標	令和7年度実績（実施率）	総合評価	
「英語体験活動」実施小学校数	7校	6校	B	
「英語体験活動」の実施回数	14回	6回		
(達成度)				
英語体験活動の実施校、実施回数ともに増やすことができなかったが、活動の中に、英語を活用したゲームなどを多く取り入れ、児童は楽しみながら、英語を身近に感じることができた。				
(課題・改善点)				
より多くの児童に英語を体験してもらえよう、プログラム内容の見直しを行っていく。				

富里市教育委員会の教育行政について（評価）

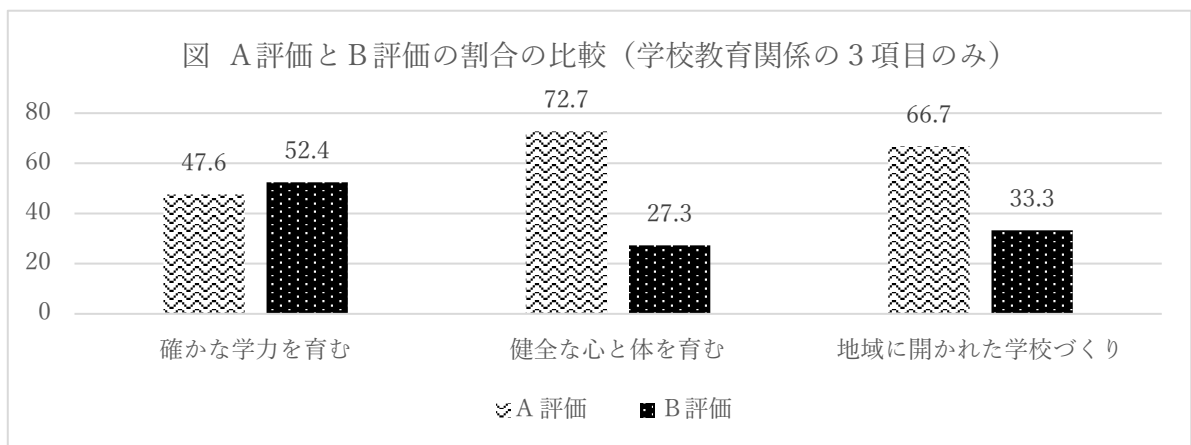
笹 井 宏 益

1 全体をととしての評価

令和8年3月末時点における「とみさと教育プラン」に基づく諸活動の達成割合については、自己点検・評価結果の全体の傾向として、「順調に達成した（A評価）」、「概ね順調に達成した（B評価）」の合計の割合が97.6%に達しており、全83項目のうち82項目で肯定的な成果を得たことが示されている。さらに、それぞれの項目についてA評価とB評価の割合についてみると、すべての項目で、B評価よりA評価が大きな割合を占めており、このことは、全体としてみて、「とみさと教育プラン」に基づく諸活動は、順調に進んでいることを示すものである。

個別の重点項目についてみると、「健全な心と体を育む」、「地域に開かれた学校づくり」、「文化芸術の振興」、「スポーツの振興」において、A評価が3分2を超えており、このことは、教育関係者や行政当局による地道な努力の成果が着実に現れてきていることを示すものである。

その一方で、学校教育にかかる重点項目について、A評価とB評価の割合をグラフにしてみると、次のようになる。



これを見てわかるように、「健全な心と体を育む」及び「地域に開かれた学校づくり」については、A評価の割合がB評価よりかなり高くなっている一方で、「確かな学力」については、B評価の割合のほうがA評価より高くなっている。このことは、「確かな学力」については、もう一歩、改善充実のための努力が求められていることを示唆している。

なお、多くの項目について、「達成度」を念頭においた「課題・改善点」として、的確かつ前向きな方針が示されており、教育委員会による自己点検・評価が、実質的にも大きな意味を持っていることが推察される。こうしたことは、評価結果を今後活かすという点で極めて重要なことであり、引き続き行なっていただきたい。

全体的に見て、富里市教育委員会による教育行政は、令和7年度において、極めて充実した活動を展開しており、高い評価に値するものである。

2 個別の重点事項についての評価

(1) 確かな学力を育む

学力の向上にかかる事業については、継続して、語彙力や計算能力などの向上のための取組みを進めたり、研究指定による指導方法の改善研究を行なったり、また教務主任研修を実施するなどの取組みを進めていることは、評価できる。その結果、県の平均点との差が縮まっているところもあり、少しずつ取組みの成果が見られるようになってきたことは、好ましいことである。ただ、総論の部分でも指摘したように、「とみの国」検定、「富里市きょうざん塾」などの事業において、語彙力や計算能力などの向上に関するテストの実施率が目標値より低い状況にあり、改善充実のためのさらなる努力が期待される。

外国語教育の充実に向けて、外国語指導補助員会議を実施したり、ALTが授業を参観し助言等を与えたり、「英会話の日推進事業」を実施したりしており、これらは定着しているものと推察される。外国語の勉強は、児童生徒に、まず自信を持たせることが重要であり、基礎から丁寧に学力を積み上げていくことが最終的に良い効果を生むものと考えられ、それに沿った外国語教育を期待したい。

郷土を愛する心を養い地域に根ざした人材の育成については、教育課程全体をとおして「ふるさと学習」の推進や「ふるさと学習」に関する研修の実施、地域教材の配布と活用といった取組みが定着しており、これらは高く評価できる。「ふるさと巡検」は、旧岩崎家別邸はじめとする富里市の魅力を知ってもらうとても良い取組みなので、さらなる充実を期待するものである。

多岐にわたる特別支援教育の推進にかかる取組み（特別支援教育専門員巡回支援事業、ライフサポートファイルの活用、個別指導補助員、発達相談の実施など）については、それぞれ目標値を達成しており、所定の成果を収めていることは、評価できる。ただ、個別指導補助員の配置については、現状維持にとどまっており、今後の増員について前向きな対応を期待したい。特別支援教育の推進にかかる取組み全体について、カウンセリング等も含めてキメの細かい対応策を実施してきており、さらなる充実を期待したい。

学校図書館の活用に関して、司書と図書館担当教諭が連携して実施している図書利用アンケートが授業等で活用されていることは好ましいことである。ただ、図書の貸し出し冊数が減少していることを考えると、本の有用性のみならず、あらためて読書の楽しさや好奇心を持つことの重要性を子どもたちに伝えることが大切である。

教職員の資質の向上については、それぞれ関連する領域の研修を受講することで指導力の向上が図られていることは、評価できる。ただ、若年教員の授業力向上については、できるかぎり目標値に沿った実施が望まれる。

I C Tを活用した学習については、ロイロノートの活用やI C T支援員の学校訪問により、児童生徒のI C T活用能力の向上が図られている状況は、評価できる。I C Tを活用した学習は、個々の児童生徒の達成具合によって異なることから、指導する側は、I C T技術をめぐる社会変化の状況を踏まえつつ、児童生徒の達成状況を見極めて指導することが望まれる。

長欠者やヤングケアラーへの対応、教育相談の実施、いじめ問題の実態把握といった取り組みについては、多くの項目で目標値が達成されており、評価できる。特に、長欠児童生徒の居場所として設置された適応指導教室「ふれあいセンター」が適切に活用されていることは、好ましいことであり、さらなる充実に努めていただきたい。他方、いじめ問題の実態把握と取り組みにおいて、いじめの解消率が目標値を下回っている状況にあり、その解消率の向上に向けての努力が望まれる。

なお、教育相談の実施については、目標値を大幅に上回る実績となっていることは特筆すべきことであるが、こうした傾向は、「困難を抱える子供たち」が増えていることを示すものであり、関係者は、こうした状況を認識し、さらなる施策の充実に努めることが期待される。

情報モラル教育の推進については、「親子ケータイ・スマホ出前授業」が実施され、着実に成果を上げている。またさらなる充実に向けての取り組みが検討されていることは、大変好ましい。情報メディアの普及・進展は、想像を絶する速さで進んでおり、それにかかる対応を積極的に教育活動に取り入れていくことが望まれる。

ジョイント・スクール推進事業については、必ずしも十分な進捗が見られていない。いわゆる小中連携は、個々児童生徒の評価にかかる基準を調整するなどの問題があったり、各学校の伝統や個性もあったりして難しい面があることはよく理解できるが、ジョイント行事の成功を踏まえ、引き続き努力を続けてほしい。

食育に関する項目については、概ね目標値を達成しており、評価できる。食育は、栄養のバランスや健康な身体づくりの基礎になることはもとより、食習慣、食文化、食の安全、食をとおしての交流など、幅広い教育的課題を含んでいる。「安全においしく楽しむ食育」にかかる諸事業については、適切に実施されており、高く評価できる。地域と一体となった食育活動は、知・徳・体のバランスの取れた健康な子供を育てることに加えて、地域文化の理解や地域への愛着を育てるものであり、引き続きその充実に努めてほしい。

学校開放や地域公開、学校支援ボランティア活用の推進、コミュニティ・スクールの推進、といった地域に開かれた学校づくりに係る項目については、着実に進展しており、評価できる。学校を地域に開くという活動は、「学校」という世界と「地域」という世界が持つ互いの価値意識の違いを尊重しつつ、「子どもたちの豊かな成長」という一つの目標のもとに協力し合うことで初めて可能になる。そこでは、これまでのやり方を変えなければならないこともあることを踏まえ、相互の信頼関係を構築しつつ、着実に進めていくことが肝要である。

中学生の職場体験学習を中核とする「地域と一体となったキャリア教育」については、B評価であるが、そこでの教育内容については、各学校による創意工夫が見られ、大変好ましい。一般的に、今の若者は自立が遅れていると指摘されることが多くなっているが、それゆえにこそ、中学生のときから多様な方法により望ましい職業観を育てていくことが重要であり、今後の拡充が期待される。

（２）生涯学習の推進

「いつまでも学べる環境整備」の事業として創年セミナーやとみっこ大学があるが、着実に進展・定着していることがうかがわれ、高く評価できる。特に、とみっこ大学では、旧岩崎家別邸という地域の資源が活かされており、今後のさらなる進展が期待される。

図書館に係る事業のうち、子ども向け事業については、ブックスタート事業、ブックトリップ事業、親子読書支援、学校図書室への支援とも、A評価ではないものの、概ね相応の成果を上げており、好ましい状況にある。情報が氾濫している今の時代において、図書館は、単に「希望者に本を貸し出す施設」であることにとどまらず、「行ってみると面白いことに出会える場所」であり、そうした観点から、図書館事業の充実を図ることが期待される。

（３）文化・スポーツの振興

文化芸術の創造、文化資源の保守、文化資源の活用、生涯スポーツ体制の整備、健康体力づくりとスポーツ活動の充実、学校体育施設開放事業の促進、スポーツ施設の整備、といった幅広い分野において適切な成果が得られており、高く評価したい。特に、無形民俗文化財継承事業への支援や郷土資料の展示、文化財を活用した学習支援については、キメの細かい取組みがなされており、好ましいことである。また、旧岩崎家別邸も、様々な角度から適切な保存活用が行われており、引き続きの取組みを期待したい。

生涯スポーツの振興に係る諸事業については、概ね目標値を上回る実績が示されており、評価できる。このことは、市民レベルでスポーツが着実に普及していることを示すものであり、引き続きその充実を図ってほしい。

青少年教育や人権教育の分野では、思いやりのある青少年の育成や放課後子ども教室の推進、英語体験の実施にかかる事業において目標値を下回る状況にあり、一層の創意工夫が期待される。